

# 自然系学芸員シマムーの にここ通信 NO.3

やっと冬らしく寒さを感じるようになりましたね！自然系学芸員の「シマムー」です。こんにちは！今日は「絶滅危惧種に会う冬の楽しみ」をテーマに話をしたいと思います。今日もなかなかレアなお話ですよ(笑)。それでは、はじめはじめ～！

海も暖かい時期とは違い、この時期(冬期)は生物たちのにぎやかな風景は見られません。そんな時期の海にも楽しみがあります。潮の引いた「夜の海」の観察です。春から夏の大潮は、昼間に潮が引きますよね。潮干狩りに行くのはこの時です。でも、冬の寒い時期は、潮の満ち引きが逆になります。みなさんが寝静まった、夜中にしか潮が引きません。物好きな「シマムー」は、このタイミングを逃さず海を見に行きます！いやいや！目的もなくわざわざ寒い夜中に海に出かけるわけではありませんよ。「シマムー」のお目当ては「ノリ」です！暖かい時期には見られなかった「ノリ」を含めた海藻たち。その成長した姿を、潮の引いた海で間近に見て観察していますので！暖かい時期の昼間と違い、冬の夜の海は、風がなければ「シーン」としてとても静かな暗闇が広がります。「なんて神秘的なのだろう！いつまでも観察をしたい！」と思います。逆に、冷たい北風が強い日は「早く観察をして帰りたいな～」と思うこともあります(笑)。



牡蠣殻についた  
アサクサノリ



アサクサノリの標本

ライトを頼りに「ノリ」を探すのですが、暗闇の中でライトに照らされた海藻たちは赤・緑・茶色と、色鮮やかに迎えてくれます。そんな海藻の中から「アサクサノリ」を今回は紹介しますね。「アサクサノリ」は、昭和 20 年代までは東京湾で海苔養殖に使われてきた「ノリ」でした。しかし、生息場所である河口の浅瀬の開発や、昭和 30 年代に北の方から養殖品種として持ち込まれた「スサビノリ」の影響により、その姿を見ることはなくなりました。日本各地でも、生息域が限られています。海苔養殖発祥の地である東京湾でも、『アサクサノリ』は絶滅してしまったのではないかと、長い間考えられていました。しかし、2004 年に多摩川の河口、そして 2006 年にはなんと浦安市の旧江戸川河口で生息が確認されました！東京湾でも、限られた場所で細々と野生の「アサクサノリ」が命をつないでいることが分かったのです！

この冬も、テーマパークが閉園して明かりが消える頃、ライトを持って「アサクサノリ」に会いに行ってみたいと思います！あ、みなさんは危ないので真似はしないでくださいね。「シマムー」は、一応プロの学芸員ですから(笑) 細心の注意を払って観察を行っています！「アサクサノリ」や観察の様子は企画展「浦安の海苔養殖」で見ることができますので、みなさんはそちらをご覧くださいね！



岩に付いている  
アサクサノリ

QR コードを読み込むと「浦安市郷土博物館」のホームページが開きます。バックナンバーも読めますよ～！

